

スケッチ展

「令和・足尾二十景」

今年2023年は、足尾銅山が閉山して50周年になります。足尾は、日本の「富国強兵」政策を担った大銅山で、大正の初めには4万人になんなんとする人口を抱えた栃木県第2位の町でした。東京から近いこともあって、新しい文化・文明はすぐに町に採り入れられ、繁栄を謳歌しました。しかし一方では、製錬の過程で出る毒物が渡良瀬川の上流では松木村を滅ぼし、下流では、栃木・群馬・埼玉・茨城の田畑を荒地にし、日本の公害第一号の汚名も着るようになりました。現在の足尾は、日光市に合併し、人口も1500人程度まで落ち込み、町は廃屋だらけになりました。しかし、町のあちこちに、往時の繁栄の跡は残り、それがとても印象的です。

スケッチを描いた私はこんな足尾の町の魅力に取りつかれ、この3年間、何度も足尾を訪問してきました。写真では表せない足尾への思いをスケッチにすることを思いつき、昨年「令和・足尾三十六景」というスケッチ集を出版しました。この本は予想外に好評で、第2刷になりました。この間、昨年春には「足尾銅山観光」の待合室で、秋には「足尾行政センター」のロビーでそれぞれ展覧会を行い、今年4月からは、足尾環境学習センターでも展示されます。

そんな折、館林・田中正造記念館でも展示したいとの提案を受け、描き始めていた「続令和・足尾三十六景」のうちの描き上がった分の20枚を展示させて頂くことになり、思いもかけない大展開にびっくりしています。

私は、元は高校で英語を教えていただけの81歳の老人で、絵心も特にあるわけでもなく、色鉛筆や絵の具も、その辺にあるものを適当に使って描いただけのもので、本来ならお見せするようなものではないのですが、「質より数」の精神で、令和の足尾を多少でも後世に残せたのではないかと喜んでいきます。またこのスケッチ集を見て、足尾を訪問する人が増えればいいとも考えています。

展示期間

2月25日(土)

～

5月28日(日)

「令和・足尾三十六景」(800円)は、記念館で販売しています。

「続 令和・足尾三十六景」(800円)は、秋に出版予定です。

堀泰雄 〒371-0825 前橋市大利根町2-13-3

電話・ファックス 027-253-2524

メール hori-zonto@r.water.sannet.ne.jp

足尾鉍毒事件田中正造記念館 〒374-0023 群馬県館林市大手町6-50 電話：0276-75-8000

ホームページ NPO法人 足尾鉍毒事件田中正造記念館 (<http://www.npo-tanakashozo.com>)

開館日時 毎週火・木・土・日、午前10時から午後4時まで開館(入場無料)